

目次

おとり扱いについてのお願い	2
各部の名まえ	3
補助テーブル	4
標準付属品	4

操作をおぼえましょう

電源のつなぎ方	5
速さの調節のし方	5
照明ランプ	5
返しぬいレバー	6
押えのとりかえ方	6
押え上げ	6
糸調子の合わせ方	7
下糸の準備をしましょう	8
ボピンをとり出します	8
ボピンに糸を巻きます	8・9
ボピンをかまにセットします	9
上糸の準備をしましょう	10
上糸を掛けます	10
糸通しの使い方	11
下糸を引きあげるには	12
布に適した糸や針を選ぶ目安	12
模様選択ダイヤル	13
送りダイヤル(ぬい目あらさ調節)	13
スーパー模様の形の整え方	13

実用ぬいいろいろ

直線ぬい	14
ぬいはじめ	14
厚手の布端のぬいはじめ	14
ぬい方向をかえるには	14
ぬいおわりと糸の切り方	14
針板ガイドラインの利用	14
ジグザグぬい	15
かがりぬい	16
トリコットぬい裁ち目がかり	16
かがりぬいステッチ	16
くけぬい(まつりぬい)	17

三重ぬい	17
直線三重ぬい	17
ジグザグ三重ぬい	17
ボタンホール	18
芯入りボタンホール	18
ファスナーつけ	19・20

応用ぬいいろいろ

キルティング	21
ピンタック	21
アップリケ	21
パッチワーク	22
スモッキング	22
シェルタック	22

押えホルダー・針のとりかえ方

押えホルダーのはずし方・つけ方	23
針のとりかえ方	23

ミシンのお手入れと調整

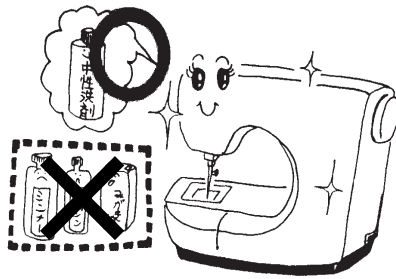
ミシンのお手入れ	24
かまの掃除	24
かまの分解	24
かまと送り歯の掃除	24
かまの組つけ	24
ミシンの調子が悪いときの直し方	25
別売品のご紹介	26

おとり扱いについてのお願い

ご使用の前に

ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよく拭いてください。

シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。



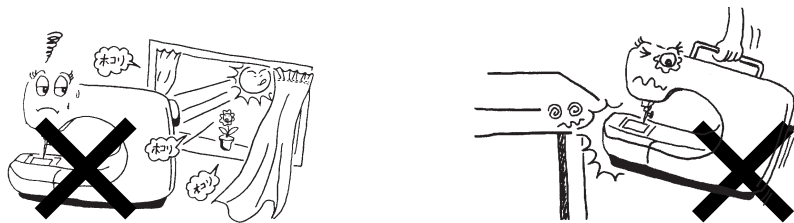
いつまでもご愛用いただくために

長時間日光に当てないでください。

湿気やほこりの多いところは避けてください。

落としたり、ぶつけるなど衝撃を与えないでください。

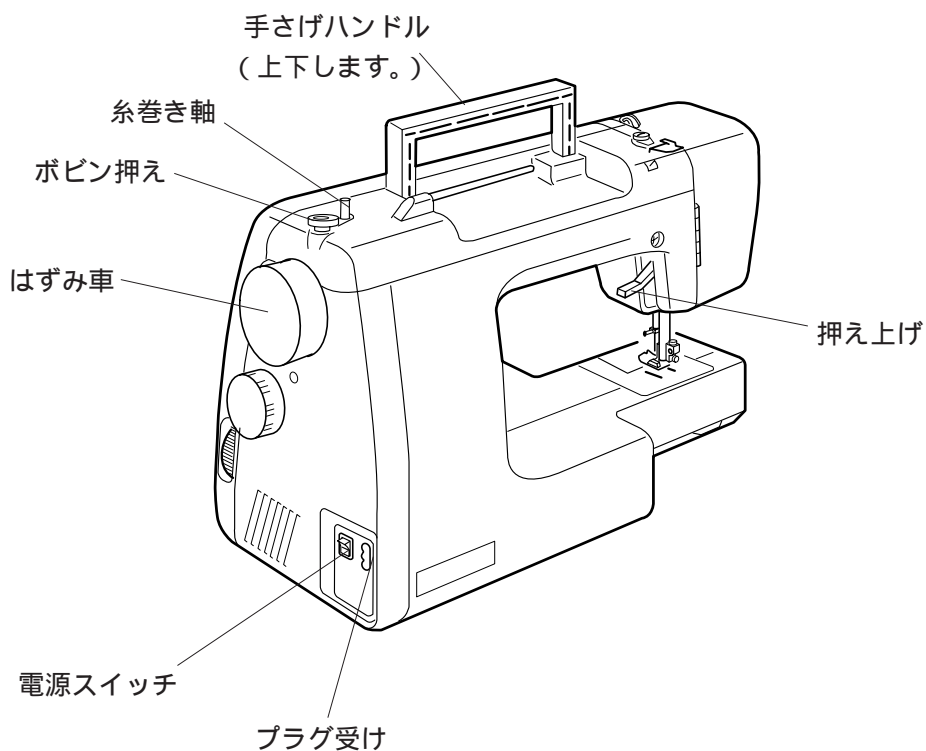
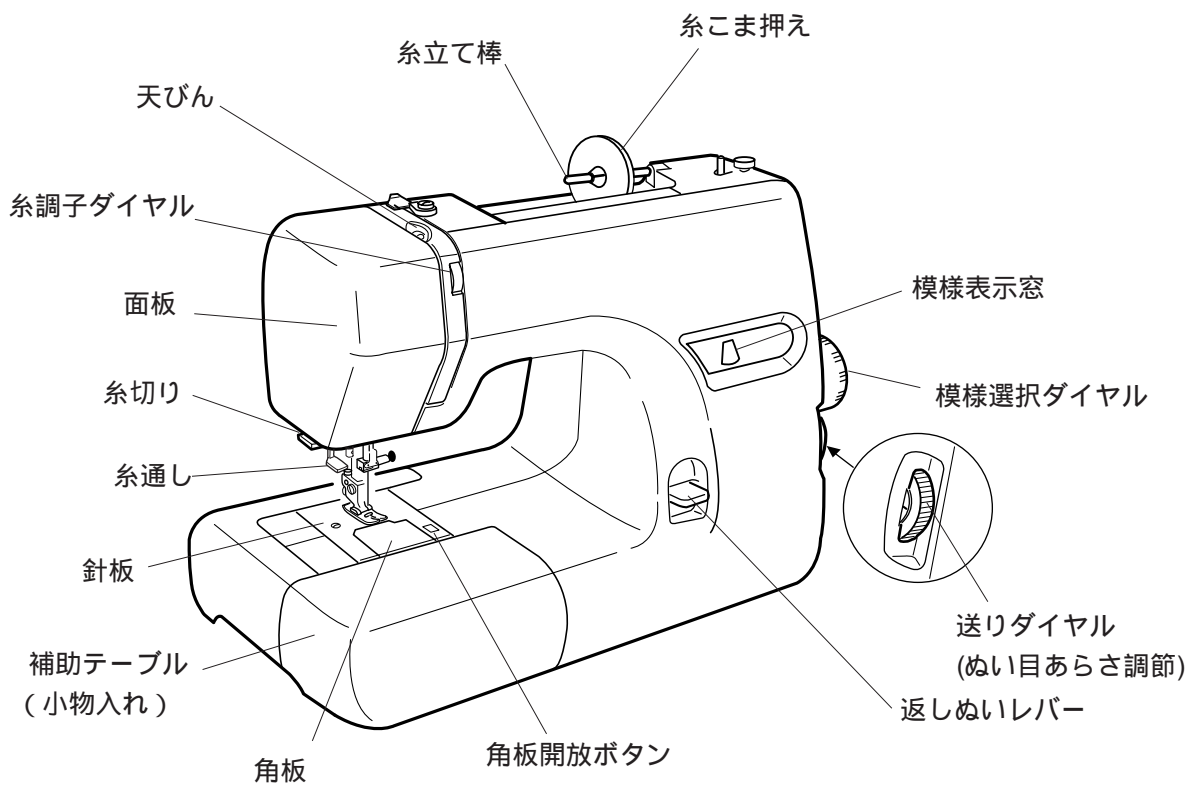
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手をミシンにそえてください。



修理・調整についてのご案内

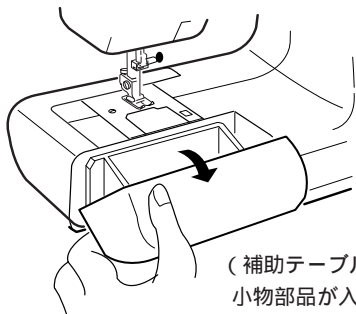
万一不調になったり故障を生じたときは、「ミシンの調子が悪いときの直し方」(25ページ)により点検・調整を行ってください。

各部の名まえ



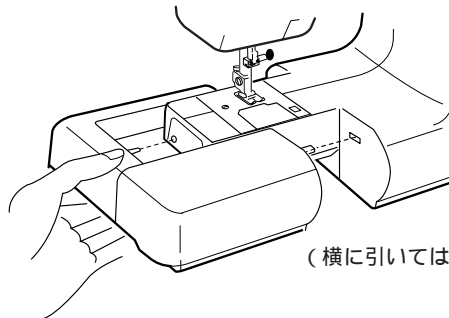
※製品改良等のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

補助テーブル



(補助テーブルをひらくと、小物部品が入ります。)

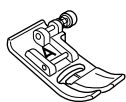
(補助テーブルのはずしかた)



(横に引いてはずします。)

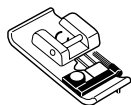
標準付属品

(押えには、記号を表示してあります。)

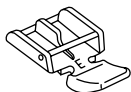


A 基本押え

A 基本押えは、ミシンについています。



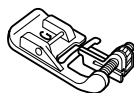
C 裁ち目かがり押え



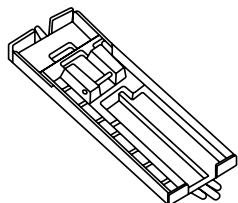
E ファスナー押え



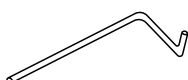
F サテン押え



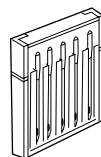
G くけぬい押え



J ボタンホール押え



キルター
(棒定規)



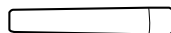
針と針ケース



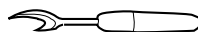
ドライバー



ボビン



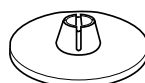
シームリッパー



ミシンブラシ



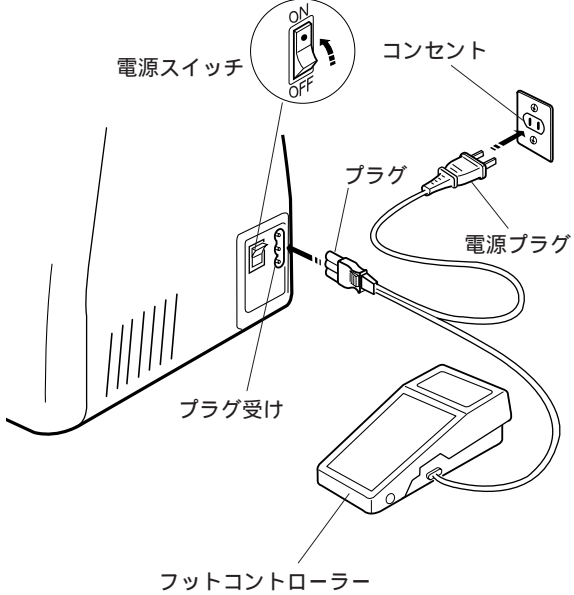
糸こま押え (小)



糸こま押え (大)

糸こま押え (大) はミシンの糸立て棒についています。

電源のつなぎ方 操作をおぼえましょう

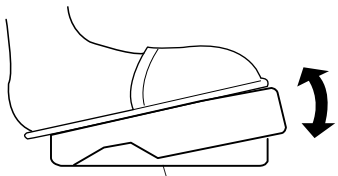


⚠ 警告

- ・電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
- ・ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電、火災の原因になります。
- ・電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり、火災の原因になります。

電源スイッチを「OFF」(切)にして、プラグをプラグ受けにさしこみます。電源プラグをコンセントにさしこみます。電源スイッチを「ON」(入)にします。

速さの調節の仕方

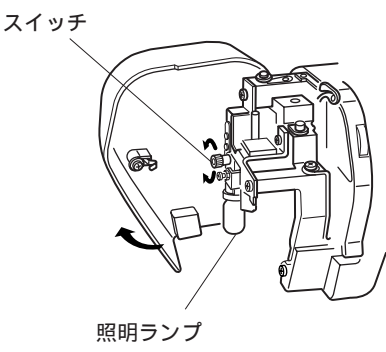


フットコントローラーは、深く踏み込むほど速くなります。

⚠ 注意

- ・フットコントローラーの上に物を乗せないでください。けがや故障の原因になります。
- ・フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。動作不良を起こし、けが、故障の原因になります。

照明ランプ



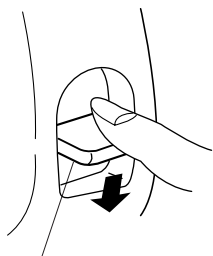
⚠ 注意

- ・ランプをとりかえるときは、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。感電・けがの原因になります。
- ・ランプは冷えてからはずしてください。やけどの原因になります。

《つけ方、消し方》
 面板をひらいて、スイッチをまわします。

《照明ランプのとりかえ方》
 はずすとき・・・左へまわす
 つけるとき・・・右へまわす

返しぬいレバー



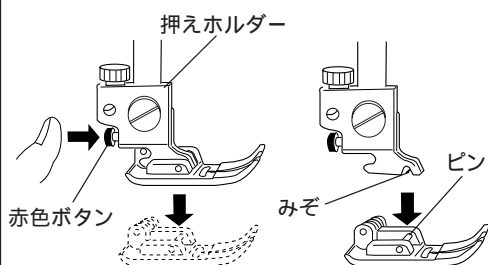
返しぬいレバー

ミシンが動いている状態で返しぬいレバーを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと前進ぬいに戻ります。

押えのとりかえ方

⚠ 注意

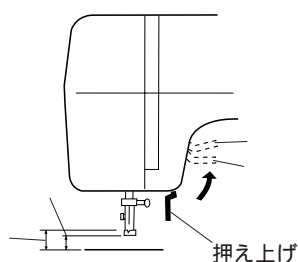
押さえのとりかえは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。押さえは、模様にあったものをご使用ください。押さえが合っていないと、針が押さえに当たり針折れしてけがの原因になります。



押え上げをあげて、押えホルダーの赤色ボタンを押して、押えをはずします。

押えのピンを押えホルダーのみぞに合わせて押え上げを静かにおろします。

押え上げ



押え上げで、押えの上げ下げをします。押え上げを普通にあげた位置より、さらに高くあげると、押えはさらにあがります。

さげた位置 (ぬいするときにはさげておきます。)

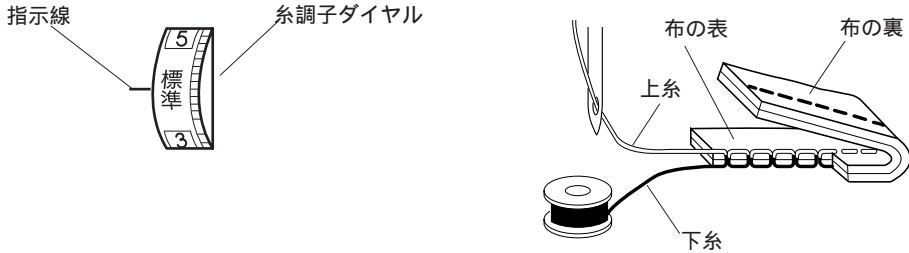
普通にあげた位置 . . (布の取り出しや、押えの交換のときにあげます。)

さらにあげた位置 . . (補助リフトで、布が入れやすくなります。)

糸調子の合わせ方

素材やぬい方によって、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。



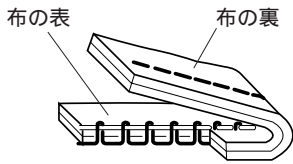
バランスのとれた糸調子

直線ぬいのはきは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

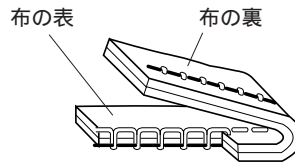
ジグザクぬいのはきは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

・上糸が強すぎるとき・・・小さな目盛りに合わせます。

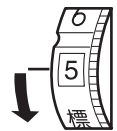
・上糸が弱すぎるとき・・・大きな目盛りに合わせます。



下糸が布の表に出ます。



上糸が布の裏に出ます。



下系の準備をしましょう

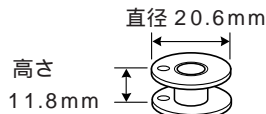
ボビンを取り出します

ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下系に使用しないでください。

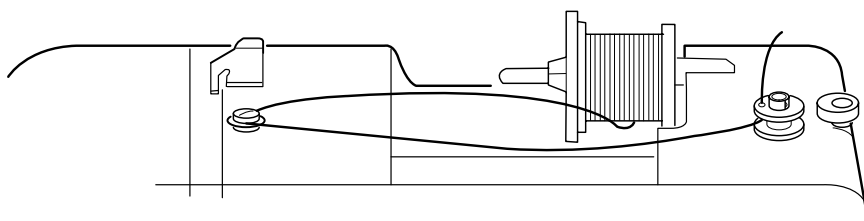


角板開放ボタンを右へずらして角板をはずしボビンを取り出します。

ボビンは当社専用のプラスチックボビンをおすすめします。(お買い上げの販売店へご相談ください。)

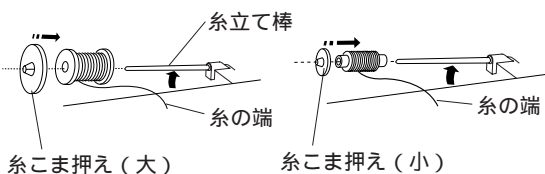


ボビンに糸を巻きます



普通の糸こまのとき

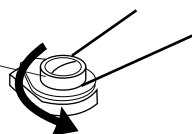
小さい糸こまのとき



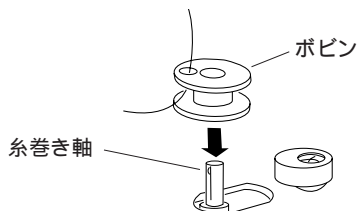
糸こまをセットします。

糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前出るようにして糸こまを入れ、糸こま押えで糸こまを押えます。

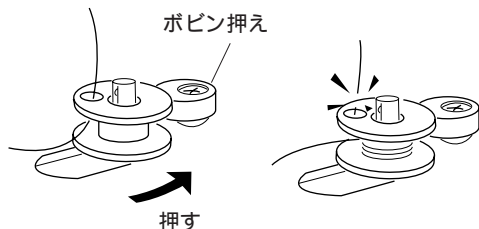
糸巻き糸案内



糸巻き糸案内に糸を掛けます。



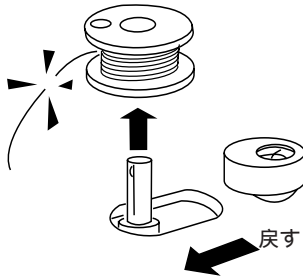
ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸にさしこみます。



ボビンを、ボビン押えの方に押しつけ糸の端をつまんだまま、フットコントローラーを踏んで巻きはじめます。

糸がボビンに3重ぐらい巻きついたら、ミシンを止めて穴のきわで糸を切ります。

糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから動かしてください。

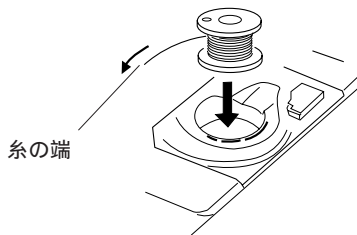


再びフットコントローラーを踏んで巻きはじめます。
巻き終わるとボビンの回転が止まります。
フットコントローラーの踏み込みを止めてボビンをもとに戻し、糸巻き軸よりボビンをはずして糸を切ります。

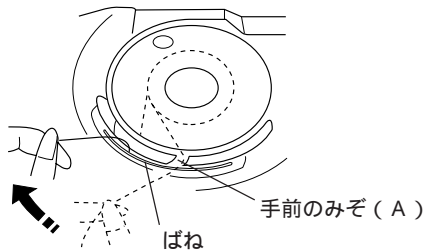
ボビンをかまにセットします

⚠ 注意

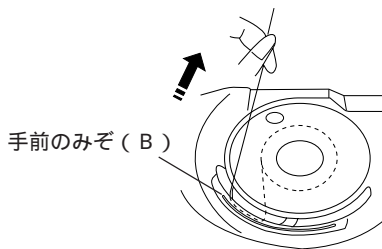
ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。



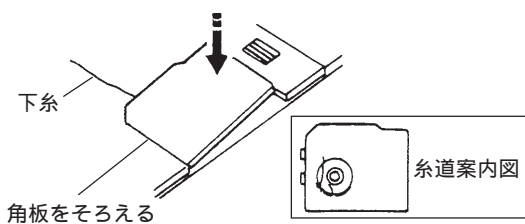
角板をはずし、糸の端を矢印方向にだして、ボビンを内がまに入れます。



糸の端を引きながら手前のみぞ(A)に掛け、さらに糸を引いて、みぞの外側とばねの間を、通します。



糸を手前のみぞ(B)に掛けるようにして向こう側に出します。



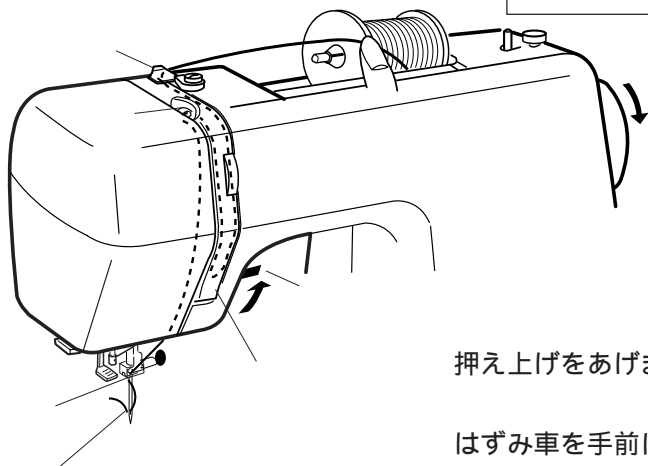
下糸を10cmくらい引き出して、角板をつけます。

上糸の準備をしましょう

上糸を掛けます

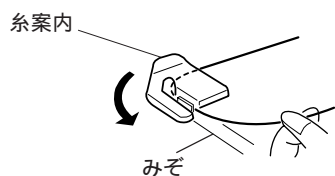
⚠ 注意

上糸をかけるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。

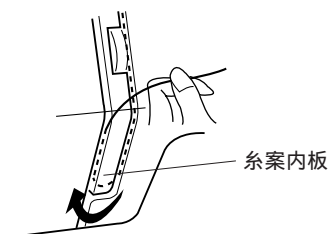


押え上げをあげます。

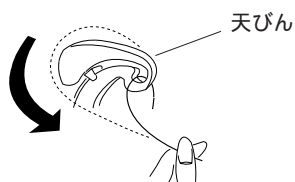
はずみ車を手前に回し、天びんを一番上にあげます。



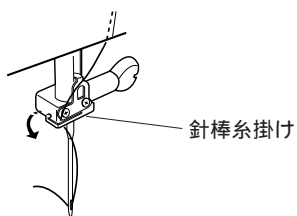
糸こまから糸を引き出し右手で糸こまを押え、左手で糸を持ち糸案内の向こう側から掛け、みぞにそって手前に糸を引き出します。



糸案内板の下を回して、右から左に掛け、上に引きあげます。



天びんに右から後ろを回して手前に出し、まっすぐ下におろします。



針棒糸掛けに左から掛けます。

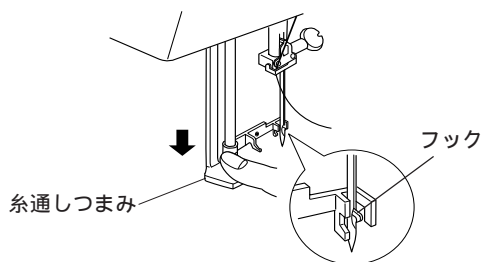
糸通しを使って針に糸を通します。

(糸通しの使い方は、11ページをごらんください。)

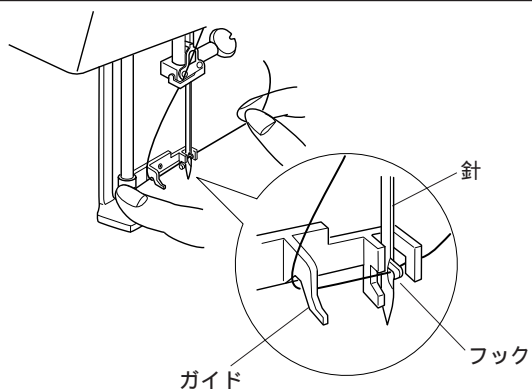
糸通しの使い方

⚠ 注意

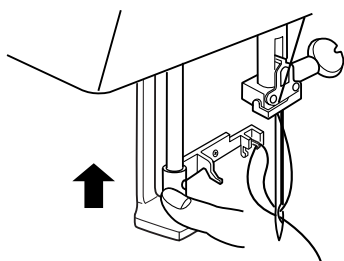
糸通しを使うときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。



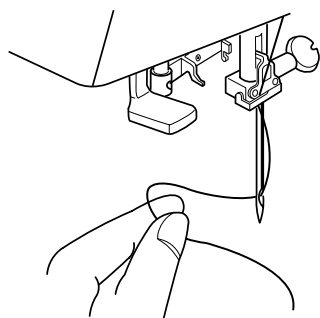
針を一番上にあげて、糸通しつまみを止まるまでいっぱい引き上げます。
フックが針穴に入ります。



糸を左側からガイドとフックに掛けます。



糸の端を軽く持ち、糸通しつまみを静かにはなすと、糸の輪が引きあげられます。



糸の輪を糸通しからはずし、針穴から端を引き出します。

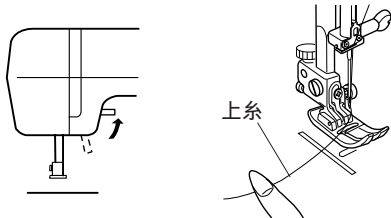


針は、11 ~ 16 番、およびジャノメブルー針が使えます。

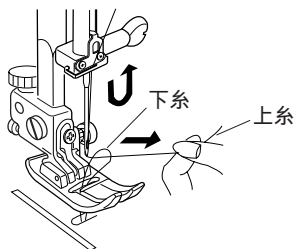


糸は 50 ~ 90 番が使えます。

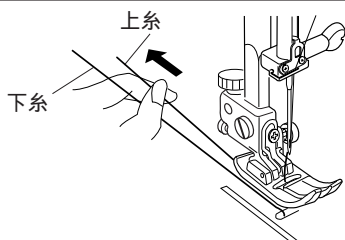
下糸を引きあげるには



押え上げをあげ、上糸を指で押えておきます。



はずみ車を手前に1回転させ、針をあげます。
上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。



上糸・下糸を押えの下にして後ろへそろえて出します。

布に適した糸や針を選ぶ目安

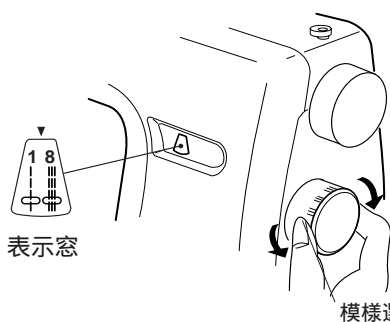
	布	糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番 ~ 11 番 またはブルー針
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール	絹 糸 50 番 綿 糸 60 番 ~ 80 番 ポリエステル、ナイロン 50 番 ~ 90 番	11 番 ~ 14 番 またはブルー針
		綿 糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ツイード コート地	絹 糸 50 番 綿 糸 40 番 ~ 50 番 化繊糸 40 番 ~ 50 番	14 番 ~ 16 番
		ポリエステル 30 番 綿 糸 30 番	16 番

一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

伸縮性のある布(ジャージー、トリコット)や目とびしやすい布地などには、付属のブルー針を使用すると目飛び防止効果があります。(市販SP針も同様の効果があります。)

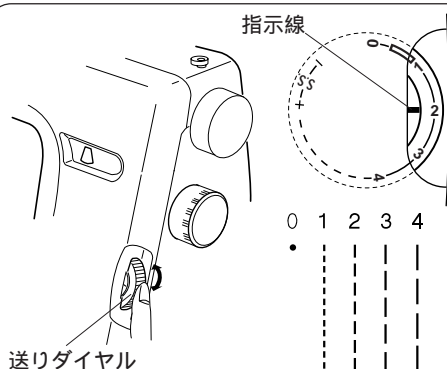
模様選択ダイヤル



模様選択ダイヤルをまわし、選んだ模様を表示窓に合わせます。

針が布にささったままで模様選択ダイヤルをまわすと針が曲がったり、折れたりする原因になります。

送りダイヤル（ぬい目あらし調節）

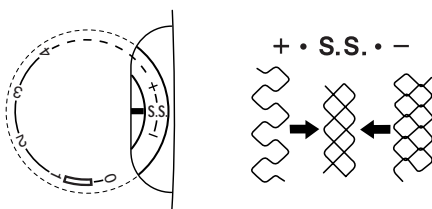


送りダイヤルをまわして、目盛を指示線に合わせます。

目盛が大きくなるとぬい目はあらかくなります。

模様選択ダイヤルを (ϕ) または、 (ϕ) に合わせ、送りダイヤルをまわすと、ぬい目あらしは左図のように変化します。

ϕ は、ボタンホールのぬい目あらしの調節範囲をしめします。



送りダイヤルをS.S.に合わせると、模様選択ダイヤルで選んだ模様は、スーパー模様になります。

スーパー模様の形の整え方

模様の形が整わないとき、伸びている場合は、「-」方向に、つまっている場合は「+」方向に送りダイヤルをまわして調節します。

模様を選ぶとき、模様選択ダイヤルと送りダイヤルは、下表を目安にセットしましょう。

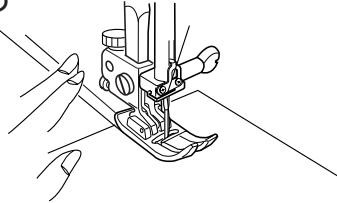
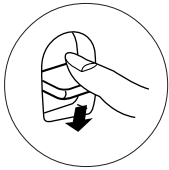
模 様	BH 1 4 3 2							
送りダイヤル		1.5 ~ 4		0.5 ~ 4	1 ~ 3		0.5 ~ 1.5	2 ~ 3
スーパー模様								
送りダイヤル		S.S.						

実用ぬいいろいろ

直線ぬい

縫製 の コツ	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
	または	A 基本押え	1.5 ~ 4	2 ~ 6	

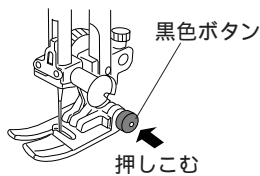
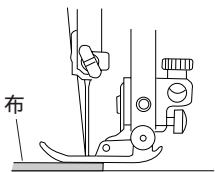
ぬいはじめ



糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ぬいはじめます。

ぬいはじめのほつれ止めは、返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。

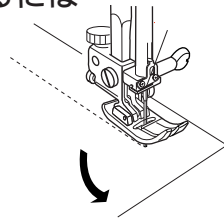
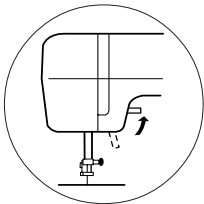
厚手の布端のぬいはじめ



ぬいはじめの位置に針をさし、基本押えの黒色ボタンを押しこみます。

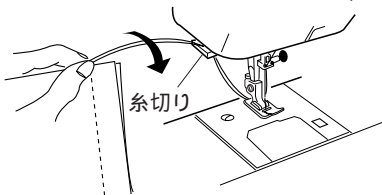
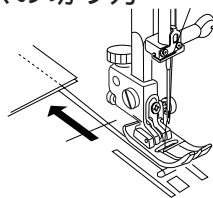
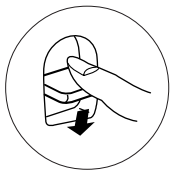
ボタンを押したままで押え上げをさげます。ボタンから手をはなし、ぬいはじめます。

ぬい方向をかえるには



ミシンを止め、針を布にさしたままで押え上げをあげ、布をまわしてぬい方向をかえます。

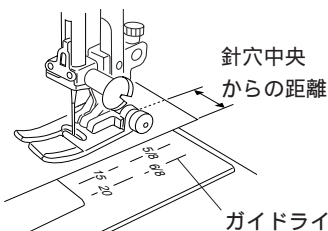
ぬいおわりと糸の切り方



返しぬいレバーを押しながら数針返しぬいをします。押え上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

糸切りで糸を切ります。

針板ガイドラインの利用



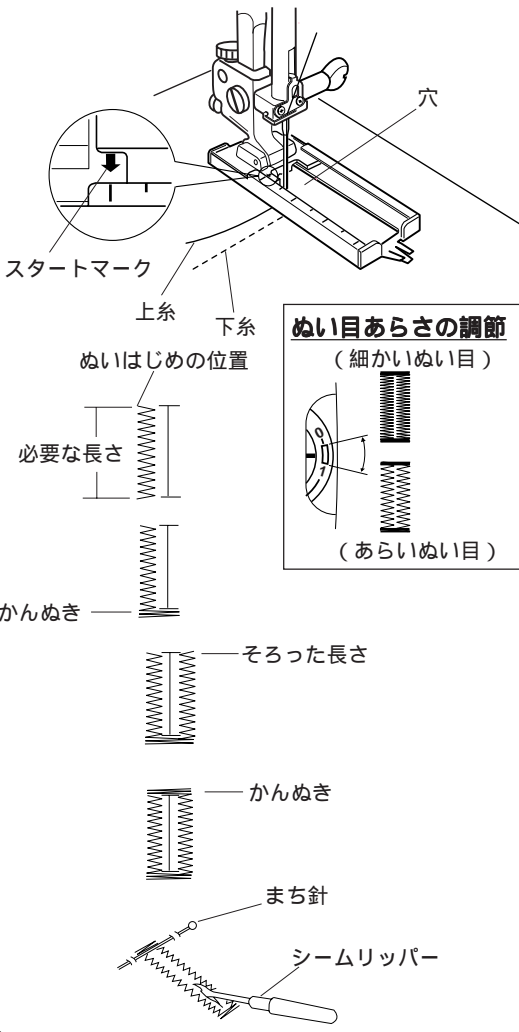
布端を角板及び針板のガイドラインに合わせてぬいます。

数字は、針穴中央からの距離です。

数字	1.5	2.0	4/8	5/8	6/8
間かく(cm)	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

ボタンホール

縫製スタート	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル
		Jボタンホール押え	0.5 ~ 1 (の範囲)	1 ~ 標準

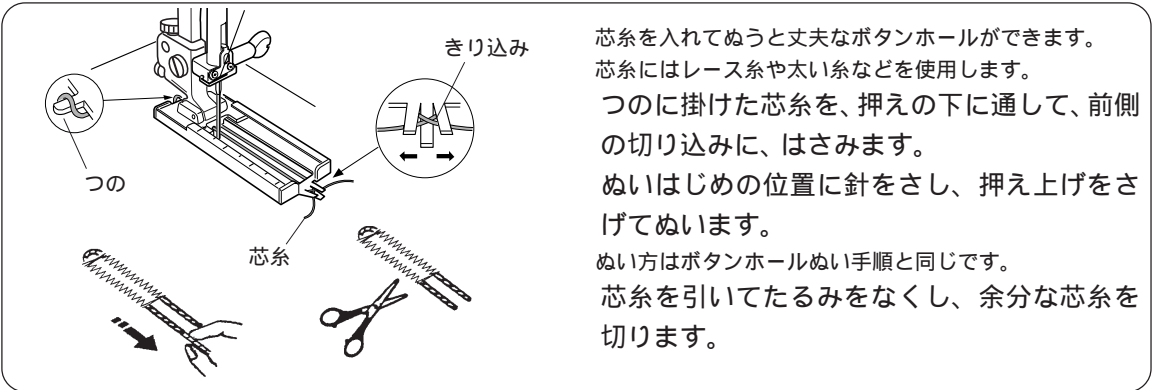


必ず試しぬいをして、正しくぬえることを確認しましょう。
伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ります。

【ぬい方】

模様 **1** を選びます。
針と押え上げをあげて押えを取りつけます。
上糸を押えの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
押えを手前いっぱいまで引き出してスタートマークを合わせます。
ぬいはじめの位置に針をさして、押えをおろし、ミシンをスタートさせます。必要な長さだけぬい、ミシンを止めます。
模様 **2** を選び、かんぬきを5針くらいぬい、ミシンを止めます。
模様 **3** を選び、左側と同じ長さまでぬい、ミシンを止めます。
模様 **4** を選び、かんぬきを5針くらいぬいます。
押え上げをあげて布を引き出し、上糸・下糸を10cmくらい残して切ります。下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。
かんぬきの内側にまち針をさし渡して、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

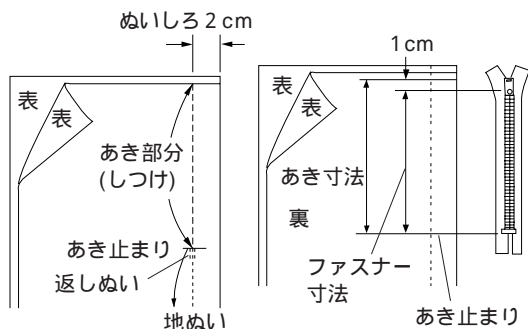
芯入りボタンホール



芯糸を入れてぬうと丈夫なボタンホールができます。
芯糸にはレース糸や太い糸などを使用します。
つゆに掛けた芯糸を、押えの下に通して、前側の切り込みに、はさみます。
ぬいはじめの位置に針をさし、押え上げをさげてぬいます。
ぬい方はボタンホールぬい手順と同じです。
芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

ファスナーつけ

セットの目安	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	スカート、スラックス、ワンピースなどのあきの始末に用います。
		Eファスナー押え	1.5 ~ 4	標準 ~ 6	



準備 例：左脇あきのぬい方

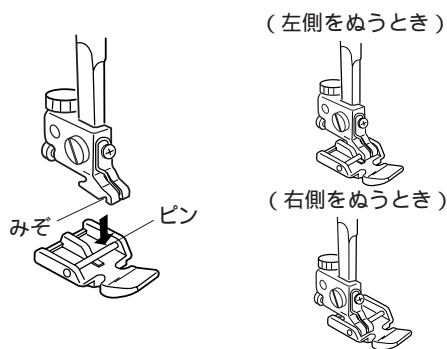
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをし数針返しぬいをします。

あき部分は、しつけをしておきます。

しつけは、ほどきやすいように糸調子ダイヤルを「1」、送りダイヤルを「4」にしてぬいます。

しつけが終わったら、糸調子ダイヤルと送りダイヤルをもとに戻します。

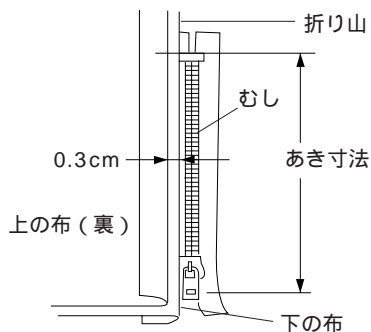
あき寸法はファスナー寸法に1cmプラスした寸法です。



ファスナー押えのつけ方

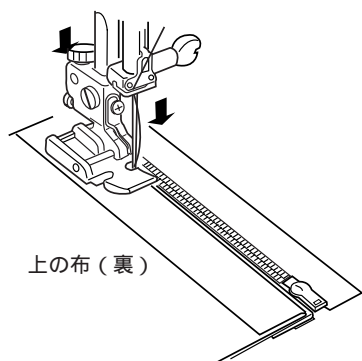
左側をぬうときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。

右側をぬうときは、押えホルダーのみぞにピンを合わせて左側にセットします。



ぬい方

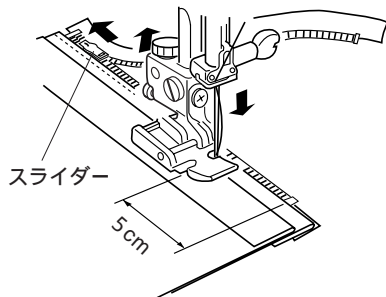
ぬいしろをわり、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。



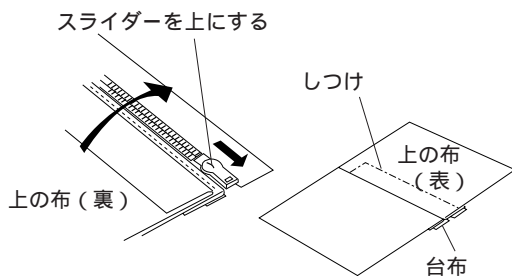
ファスナー押えの右側のピンを押えホルダーにセットします。

押えの端にむしのきわを当てて、あき止まりからぬいます。

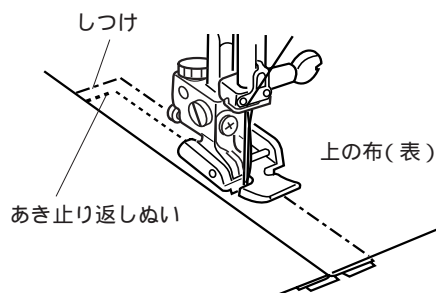
ぬいはじめのほつれ止めは、数針返しぬいをします。



ファスナーの端から 5 cm 位手前でミシンを止め、針を布にさします。押え上げをあげてスライダを押し向こう側にずらし、押え上げをさげて端までぬいます。ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

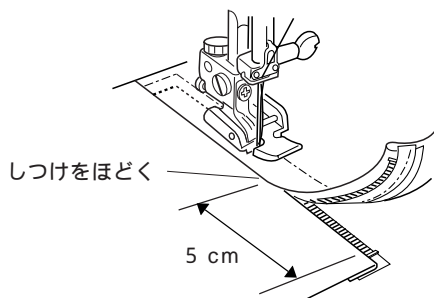


スライダを上に引きあげて、つまみの金具を上倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。しつけは、ほどこきやすいように糸調子ダイヤルを「1」、送りダイヤルを「4」にしてぬいます。しつけが終わったら、糸調子ダイヤルと送りダイヤルをもとに戻します。

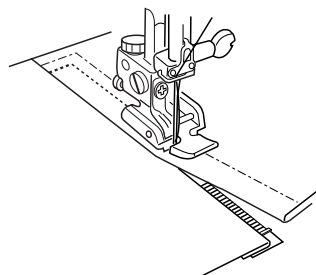


ファスナー押えの左側のピンを押えホルダにセットします。

上の布のあき止まりを返しぬいして、押えの端にスライダのきわを当ててぬいます。



ファスナーの上側を 5 cm くらい残したところで止めて、はずみ車を手前に回し針をさげ、針を布にさしたままで押え上げをあげて、<準備> でぬったしつけ糸をほどこきます。



スライダを押し向こう側にずらし、押え上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順 でぬったしつけ糸をほどこきます。

応用ぬいいろいろ

キルティング

セッ トの 目 数	模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	ぬい目を平行にぬって いく方法で、袋物など の装飾に利用します。
		A 基本押え + キルター	1.5 ~ 4	3 ~ 6	

キルター止めねじをゆるめて、キルターをとりつけ穴に入れ、止めねじをしめます。

キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

ピントック

セッ トの 目 数	模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	ブラウスの前身頃などの 装飾に利用します。
		G かけぬい押え	1.5 ~ 3	2 ~ 6	

はずみ車を手前にまわして、針が折り山より0.1~0.2cm内側におりるように布を置いて、押え上げをおろします。

ガイドねじをまわして、ガイドを折り山に合わせ、ぬいます。


アップリケ

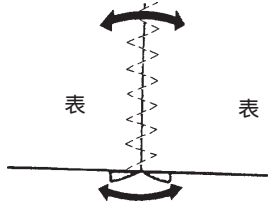
セッ トの 目 数	模 様	押 え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	アップリケ布は糊づけするか、 しつけで止めます。また、両 面接着芯を使うと便利です。
		F サテン押え	0.5 ~ 1	1 ~ 標準	

アップリケ布が、針の左にくるようにして、ふちをぬいます。

カーブのところや方向転換をするところではミシンを止め、はずみ車を手前に回し、針をアップリケ布の外側にさしたままかえると、きれいに仕上がります。


パッチワーク

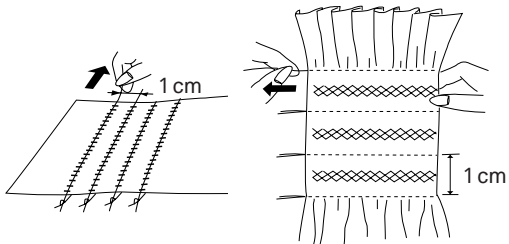
セット 面の 枚数	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	0.5 ~ 1.5	1 ~ 標準	



布を中表に合わせ、地ぬいをして、ぬいしろを割ります。
 布の表から、地ぬいの線を中心にしてぬいます。


スモッキング

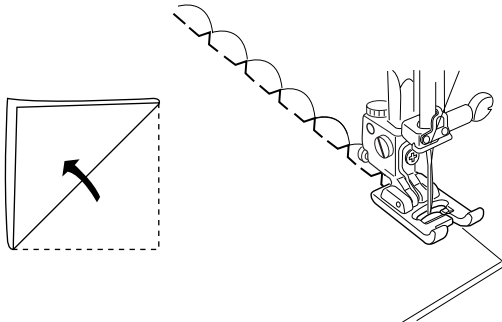
セット 面の 枚数	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	
		A基本押え	S.S.	標準 ~ 6	



糸調子ダイヤルを1~3にして、ぬい目のあらかさ0.3~0.4cmの直線ぬいを、1cm間かくで数本ぬいます。
 ぬいおったら糸調子ダイヤルを「標準」に戻します。
 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いて、ひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
 直線ぬいの糸と糸の間に模様ぬいをしてから、直線ぬいの糸を抜きとります。

シェルタック

セット 面の 枚数	模様	押え	送りダイヤル	糸調子ダイヤル	糸調子は、試しぬいをして、シェルタックの山がきれいに 出るように調整します。
		Fサテン押え	2 ~ 3	6 ~ 8	



うす手の布をバイヤスに2つ折りにし、右側を輪にして押えの下におきます。
 はずみ車を手前にまわして針が右にきたとき、布端ぎりぎりの外側におりるようにしてぬいます。

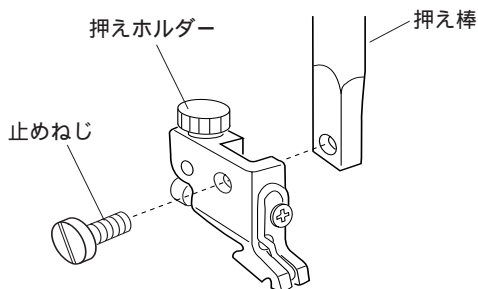
布を開いて、タックされた山をアイロンで片側にたおします。

押えホルダー・針のとりかえ方

押えホルダーのはずし方・つけ方

⚠ 注意

押えホルダーをはずすとき、つけるときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因になります。



はずし方

押え上げをあげ、押えをはずし止めねじを左にまわしてはずします。

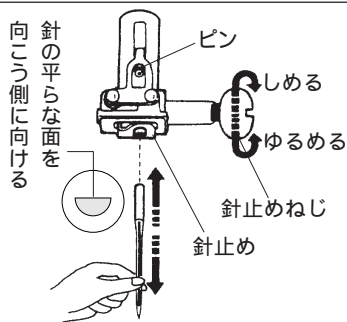
つけ方

押えホルダーの穴と、押え棒のねじ穴を合わせ止めねじをさしこみ、右にまわしてしっかりつけます。

針のとりかえ方

⚠ 注意

針をとりかえるときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがの原因になります。



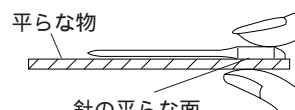
はずし方

針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針をはずします。

つけ方

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで針止めにさしこんで、針止めねじをかたくしめます。

針の調べ方



針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すき間が針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲ったり、つぶれているものは使わないようにします。

ミシンの調子が悪いときの直し方


調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。 2. 上糸調子が強すぎる。 3. 針がまがっていたり、針先がつぶれている。 4. 針のつけ方がまちがっている。 5. ぬいはじめに、上糸・下糸を押えの下にそろえて引いていない。 6. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7. 針にくらべて糸が太すぎるか、細すぎる。 	<p>10ページ参照</p> <p>7ページ参照</p> <p>23ページ参照</p> <p>23ページ参照</p> <p>14ページ参照</p> <p>14ページ参照</p> <p>12ページ参照</p>
下糸が切れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 下糸の通し方が、まちがっている。 2. 内がまの中に、ごみがたまっている。 3. ポビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 	<p>9ページ参照</p> <p>24ページ参照</p> <p>ポビンを交換する</p>
針が折れる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針のつけ方がまちがっているか、針がまがっている。 2. 針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3. ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 4. 布にくらべて針が細すぎる。 	<p>23ページ参照</p> <p>23ページ参照</p> <p>14ページ参照</p> <p>12ページ参照</p>
ぬい目がとぶ。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 針のつけかたがまちがっているか、針がまがっている。 2. 布に対して、針と糸が合っていない。 3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（市販SP針）を使っていない。 4. 上糸の掛け方がまちがっている。 5. 品質の悪い針を使用している。 	<p>23ページ参照</p> <p>12ページ参照</p> <p>12ページ参照</p> <p>10ページ参照</p> <p>針を交換する</p>
ぬい目がしわになる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が合っていない。 2. 上糸下糸の掛け方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついている。 3. 布にくらべて針が太すぎる 4. 布にくらべてぬい目があらずすぎる。 <p>特にうすい布をぬうときは、下側に紙をあててぬってください。</p>	<p>7ページ参照</p> <p>9、10ページ参照</p> <p>12ページ参照</p> <p>ぬい目を細かくする</p>
布送りがうまくいかない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 送り歯に糸くずがたまっている。 2. ぬい目が細かすぎる。 	<p>24ページ参照</p> <p>ぬい目をあらくする</p>
ぬい目に輪ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸にくらべて針が太すぎるか、細すぎる。 	<p>7ページ参照</p> <p>12ページ参照</p>
ミシンがまわらない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンセントに、プラグがきちんとさしこまれていないか、つなぎ方がまちがっている。 2. かまに、糸やごみがたまっている。 3. 糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 	<p>5ページ参照</p> <p>24ページ参照</p> <p>8、9ページ参照</p>
ボタンホールがうまくいかない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 布に対して、ぬい目のあらかさが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。 	<p>18ページ参照</p> <p>18ページ参照</p>
音が高い。	<ol style="list-style-type: none"> 1. かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2. 送り歯に、ごみがたまっている。 	<p>24ページ参照</p> <p>24ページ参照</p>

別売品のご紹介

1. 直線押え(NO.823801015)


直線ぬい

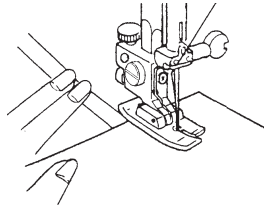
セットのめやす

模様選択ダイヤル 

糸調子ダイヤル 2 ~ 6

送りダイヤル 1.5 ~ 4

押え 
H直線押え




《ぬい方》

糸と布を左手で押え、はずみ車を手前にまわして、ぬいはじめの位置に針をさします。押え上げをさげて、ゆっくりぬいはじめます。

2. 三つ巻き押え(NO.820809014)

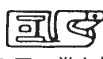
三つ巻きぬい

セットのめやす

模様選択ダイヤル 

糸調子ダイヤル 3 ~ 6

送りダイヤル 1.5 ~ 4

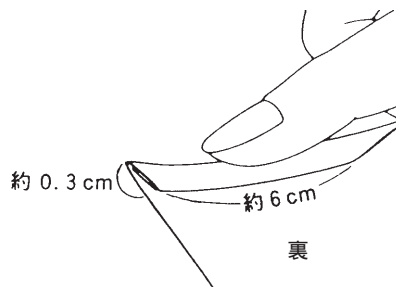
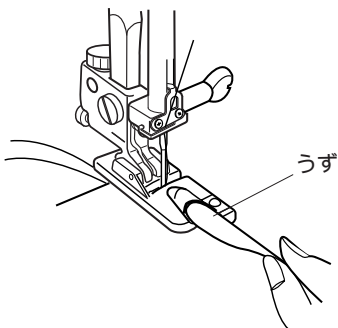
押え 
D三つ巻き押え

《ぬい方》

布端の長さ約 6 cm を、約 0.3 cm の幅で 2 度折りまげます。

ぬいはじめの部分に針をさし、押え上げをさげます。

上糸と下糸をそろえて向こう側に引きながら、布端と押えのガイドを合わせて 1 ~ 2 cm ぬいます。はずみ車をまわして針をさし、押えをあげて折りまげた布の部分を押えのうずの中に巻きこみます。押え上げをさげ、布端を立てて、引きぎみに持ちあげながらぬいます。



3. イープンフット(NO.214870008)

押えの使用方法は、説明書が箱の中に同梱されています。